

小学6年3組 図画工作科学習指導案

指導者 三 桐 撰 夫

動きのある仕掛けを生かして立体に表す共同製作作品を展示する活動において、見る人の立場や展示空間を活かした展示の工夫について学級全体で学び合ったことは、表現意欲を高め発想や構想を深めたり広げたりすることに有効であったか。

1 題材名 アートで松江を紹介しよう～動く仕組みを使って～

2 授業の構想

(1) 次の文章は、1学期に絵巻物「鳥獣人物戯画（甲巻）」の鑑賞活動を行った授業後に、日記に書かれたものである。児童Aは、友だちと一緒に作品中に登場する動物たちを楽しみながらじっくり見て味わい、筆の線の強弱や、一つひとついねいにかき分けられた動きや表情について、気がついたことを話し合っていた。模写の活動を行ったときは、絵巻物から感じたよさを大切にして、どのような筆の使い方をすればその豊かな線が再現できるか試行錯誤しながら描こうとする姿が見られた。

その絵は「鳥獣戯画」という国宝にもなっている絵で、国宝の絵を写すなんてあまりできないことだと、ありがたく思いました。その絵は、図工室の前から後ろまでの長さぐらいあって、第一印象では「ながっ!!」としか言いようがありませんでした。(中略)

その絵は筆でかいてあったので、写すときも筆ペンで写しました。長いので場面を自由に選んでかきました。私は、お経を唱えているうさぎときつねをかきました。やっぱり目は気をつけてかかないと、おこった顔になったり、優しい顔になったりするから、目は大事だなあと思いました。筆は、起こしたりねかせたり、力かげんによって線の太さやこさが変わるから難しかったです。でも、筆で絵をかくのは思ったより楽しかったです。(6年児童A)

本学級の子どもたちは、図画工作の学習活動時に見る限りにおいては、どちらかといえば手先が器用な方ではなく、手際も早いとは言い難いところがある。しかし、児童Aのように、見たことやそこから感じたこと、または、考えたことを大切に素直に作品の上に表そうとするので、どの作品も似たものがなく、一つひとつが大胆で個性的な主張を見せる。そのような子どもたち一人ひとりの発想の豊かさをつなげて、互いのよさを認め取り入れていく場を設定することで、造形体験を活かして自分らしい造形表現を追求しようとする子どもを育てていきたいと願っている。

試行錯誤を重ねながら自分や友だちの表現意図と向き合い、子ども一人ひとりが自分らしい造形表現を追求しようとする姿を育てていきたい。そのためには、一人ひとりが自分の感性を働かせて考えをもち、その考えを基に学級全体で様々な表し方を比較しながら試行錯誤し、自分の造形表現を追求する過程を大切にしたい。

(2) 本題材では、ふるさと松江を紹介することを造形活動の目的として、動きのある仕組みを活かして、例えば観光や出雲神話といった、ふるさとの文化や伝統を共同製作で作品として形に表す。また、伝えたいふるさとのよさや思いを明らかにして造形活動につなげる。仕掛けによる動きのおもしろさや、その仕組みの効果を活かして、友だちと協力して表したいことを追求し、作品にしていくことを本題材の活動のねらいとする。そこで、この単元全体のねらいを学習過程の中ではっきりさせ、目的に沿って動きの特徴をとらえたり、言語化により表現意図を明らかにしたりすることも本題材のねらいとする。この活動を通して、子どもたちが伝えたいふるさと松江についての文化や伝統を意欲的に形に表そうとしたり、その構想に基づく動きの効果を伝え合ったりする態度が生まれることを期待する。

その中で友だちとかかわり合い、多様な考え方や見方や表し方を共有することで、立体に表す活動や鑑賞についての感性などが高まり、造形表現における思考力・判断力・表現力が育成されるものと考えられる。そのために、子どもが自分や他者の学び方や表し方のよさを肯定的に認め合う姿や、表現しようと

することに向かって試行錯誤をくり返ししながら、発想や構想を見つめ直し、工夫を重ねて、より豊かな表し方にせまろうとする造形活動を進めたいと考え、本題材を構想した。

(3) 以上のことを重視して展開した授業を通して、子どもたち一人ひとりの思考力・判断力・表現力を育て、高めていきたい。そのためには、学び合っている場面での子どもたちの観察やワークシートなど記録物から変容をとらえることを大切にしたい。ワークシートを活用して、子どもたちが自分の造形表現の足跡や工夫改善していく過程を自らとらえ、評価し、次の活動に向けて発想や構想を発展的に更新すると共に、造形表現への意欲を高めることができるようにしたい。

そこで、本題材がもつ性質と、本学級の児童の実態をふまえた上で、単元を次のように展開する。

第1次では、動きを生み出す仕組みと出会う。表現主題について友だちと協力して考え、表したいことや伝えたいことを構想する。表現主題に合う仕組みを作る活動を行う。仕組みの参考例を体験し、様々な仕掛けの動きや動きと連動した形を楽しみながら味わう。動きの効果のおもしろさに出会わせ、興味・関心を高めたいと考えた。そして、動きの効果を図に描き起こしたものをもとに、友だちの感じたことやとらえ方と自分のそれについて伝え合う。自分の表したいことや仲間が表そうとしていることを感じ取り、選び出した仕掛けによる動きを手がかりにして考えを伝え合うようにかかわり合う。主題に沿って表したいことをつかんだり、自分の考えのよさを認められる中で主題についての発想や構想を深めたり広げたりしていくことができると考えた。

第2次では、イメージ文や構想図をかくことで漠然ととらえていた動きや完成型のイメージを明らかにする。ふるさと松江について、表そうとしていることの意図や仕掛けの効果について、考えや理由を自分なりに表す言葉に着目する。このことから、できあがりの方向性をつかみ、共同製作のチームで構想した造形表現の意図を明確にして、表したいことがらをより正確に造形表現に反映させることができると考えた。

仲間とともに構想したことを基に試行錯誤をくり返し、材料や用具を取捨選択しながら、作品づくりを進めたい。そのために、学級全体で製作中の作品を一つ取りあげてそのよさを検討し、材料の形や大きさを変えたり、効果的な色を選んだりするなど、よりよい表し方を見つけ出せるようにする。そして、その学びで得た経験を生かして、製作中の自分たちの作品について工夫や改善をする活動を大切にする。

第3次では、展示する場所を意識した作品づくりを進める。正面性を考えたり、作品全体を飾ることを意識したりする。また、作品そのものだけでなく、作品を設置する周囲の演出も視野に入れた造形活動を展開する。作品づくりが進むにつれ子どもたちは必要感をもって作品や展示する場に働きかけるようになる予想する。必要な材料や用具についても子どもたちが必要に応じて探し出したり、意図にあった物を選び出したり、そこに新たな工夫を加えることができるようにしたい。また、学級全体で共通の論点や視点をもってよりよい表し方や演出についての考えを伝え合う場面を設定する。学級全体で学び合ったことが自分の取り組みに還元され、発想や構想が確認されたり、更新されたりすることを期待する。

本時は第3次の2時間目である。作品を実際に配置してみることで、展示する場所と作品の関わりをとらえたり、見る人の側に立って作品をとらえたりする。見る人がより楽しめるように展示場所や作品同士の関係に注目することなど教師が提案することで、展示会場を一つの作品と見なしたり、展示場所自体を飾ったりするなど、新たな工夫を見つける子どもの姿を期待したい。また、教師が子どもの考えの背景を引き出すように掘り下げることで、子どもは根拠をもって考えを伝え合い、学び合うことができると考える。それらにより、自分たちや他のチームの作品に対しても展示のためのポイントや視点が明確になる。その視点に基づいてこだわりたいことや大切にしたいことを、友だちとかかわり合いながら仲間とともに判断して、よりよい表し方を追求する活動にする。

本時のふりかえりでは、活動の前後でイメージがどのように変化したかなど、ワークシートを用いて文章化し、自分の考えを確認したり新たな構想をつかんだりすることで、「もっとよくしたい。」「今度はこんな工夫をしたい。」という意欲を喚起していく。そして、イメージ文やアイデアスケッチなどとともに、小單元ごとに作品の画像をワークシートに集積していきポートフォリオとしてまとめる。教師は授

業を通した子どもの思考・判断・表現の変容を把握できるようにする。子どもたちは共同製作で行ってきた造形表現の記録をふりかえることで、自分自身の学びの過程を見つめることができるようにする。自分や友だちの表現意図を学びの節目ごとに明らかにし、表現の方向性をとらえることができるように価値づける。児童のアイデアや構想は常に更新され続けていくものだと考えるので、ふりかえりの活動では、子どもたちが表したいことや表し方についてのこだわりを大切に保てるようにする。

第4次では、展示した作品を鑑賞する。子どもたちが表したいことやその表し方についてのこだわりを大切にするように、鑑賞の視点を提案し、子どもたちの見方のよさを価値づけたり認めたりする。

3 展開計画(全13時間 本時10/13)

次	主な学習	時	具体的な学習・内容(◇印は、学級全体の学び合いの場面)
1	○松江を紹介するアートをつくろう ・ふるさと松江について紹介したいことをはっきりさせよう ・仕掛けの動きをアートに活かす方法を考えよう	1 2 3	・表現主題を決める。表したいことがらに応じてパーツを選び、動く仕掛けを作る。 ◇動く仕組みを活かして、紹介する松江の表し方について意見を交わしながら構想をねる。
2	・伝えたいふるさと松江のよさをイメージ文に表そう ・仕掛けを活かしてつくろう ・松江のよさが伝わるように工夫しよう	4 5 6 7 8	・伝えたい松江のよさについてイメージ文を書き、伝えたいことがらと動きのよさの関連性や効果の特徴を明らかにする。 ◇イメージ文とアイデアスケッチとを比較したり、友だちと印象を交わしたりしながら、動きの効果を活かす造形表現の方法について考えを練り、製作の方針を決定する。 ・松江のよさがよりよく伝わる造形表現を追求しながら製作する。
3	○ふれあいホールに展示しよう ・見る人が楽しめる展示の仕方を工夫しよう	9 ⑩ 11 12	・作品がより効果的に演出されるように展示場所を飾ったり、作品を工夫したりする。 ◇見る人が楽しめることを視点に作品の配置や並びを学級全体で考え、作品のよさや場所の活かし方を友だちとともに見つけ出し、場所の演出の仕方を考えたり、作品を工夫したりする。
4	○作品を鑑賞して楽しもう	13	・お客の立場で展示作品を味わい楽しむ。 ・作品のよさや演出のよさなどを見つける。

4 学び合いにおける思考力・判断力・表現力の評価

次	時	学習活動	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準		
					A	B	C
1	3	◇動く仕組みを活かして、松江を紹介する表し方を考える。	動く仕組みを活かして、表したい松江のよさについて友だちと意見を交わし、試行錯誤しながら仕掛けを考えたり造形表現の方法を決めようとしていたりしている。	発言 作品 ふりかえりカード	動きの仕組みの特徴を十分にとらえ、効果を考えながら、友だちと意見を交わし、その動きと絵や形の組み合わせ方や表し方を工夫している。	動きの仕組みの特徴をとらえ、効果を考えながら、友だちと意見を交わし、その動きを基にして絵や形の表し方を工夫している。	抽象的なイメージや先入観のみを頼りにして、安易に絵や形を決めて表そうとしている。動きの特徴と絵や形との関連性がない。
2	4	◇イメージ文とアイデアスケッチを比較したり、友だちと印象を交わしたりしながら、動きの効果を活かす造形表現の方法を考える。	動く仕組みの特徴やイメージ文やアイデアスケッチを生かして構想したこととに、友だちと表そうとしていたりすることらについて意見を交わし、考えを広げたり深めたりしようとしている。	ワークシート 発言 作品	表そうとしている松江のよさが、動きや造形表現に反映されているかどうかを、丁寧に検討したり、よりよくなるように考えを練り直したりしている。	表そうとしている松江のよさが、動きや造形表現に反映されているかどうかを検討したり、確認したりしている。	表そうとしている松江のよさが、造形表現に反映されておらず、動きや造形表現に関連性がなく、表したいことの確認ができていない。
3	⑩	◇見る人が楽しめるように、作品の配置や展示場所の演出の仕方、作品の工夫について考える。	作品のよさや展示場所の工夫の仕方などについて、友だちと意見を交わしながら、自分の考えを明らかにしたり、よりよい表し方を見つけておそうとしていたりしている。	発言 作品 ふりかえりカード	作品を工夫したり場所を演出したりする方法を考えるとともに、見る人の視点と作品と展示場所を広くとらえて関連づけ、よりよい表し方について友だちと意見を交わしながら考えようとしている。	作品を工夫したり場所を演出したりする方法を考えるとともに、見る人の視点を意識しながら、よりよい表し方について友だちと意見を交わしながら考えようとしている。	展示場所や造形表現へのこだわりを持って考えることができず、友だちの意見に耳を傾けたり、自分の考えを明らかにしようとしていたりすることができない。

5 本時の学習

(1) ねらい

作品や展示会場の特徴を活かす展示の仕方について意見を交わし、自分の考えを明らかにしたり、課題を見つたりして、よりよい表し方を自分なりに考えることができる。

(2) 展 開

学習場面と子どもの取り組み	教師の支援と願い・評価(◎は学び合いのためのはたらきかけ)
1. ○○さんのふりかえりを聞いて、こだわりたいことや表したいことについて確認する。 2. めあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 前時につかんだ表現しようとしていることについて、ふりかえりやワークシートを用いて確認する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">見る人が楽しめるような展示の仕方や作品の工夫を考えよう。</div>	
3. 展示会場にある○○さんのチームの作品をみんなで見て、見る人の側からのアイデアを提案する。 <ul style="list-style-type: none"> 作品と同じような演出を展示場所にもつけたらどうかな。 遠くから見てもわかるようにこの部分をもう少し大きくしたり、色を派手にしたりしたらいいな。 作品の説明書を表示した方が親切だと思う。 4. それぞれのチームでかかわり合いながら、展示の仕方や工夫の仕方について検討する。 <ul style="list-style-type: none"> 2つのチームで協力して展示場所をつくったらどうかな。 テーマが似ている作品の順番を並び替えたなら、展示会場に流れや順路ができるな。 ○○さんのチームと同じことがこの作品でも工夫できそうだね。 見る人がこちらから入ってくるとしたら作品の向きを変えた方がいいと思う。 壁面や窓ガラスがうまく使えないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> 作品から感じたことを言葉で伝え合うことができるように、動きから受ける印象やイメージについて、形を手がかりに拾い上げる。 ◎自分なりのとらえ方に沿った具体的な説明や、根拠や理由を伴う意見のよさを認める。 部分的にあるいは全体的に作品をとらえ、イメージを喚起する形の特徴に気づくようにする。 ◎理由や根拠を問い返しながら、意図を明らかにするように促す。 表したいことの意図に沿うように、技能的な支援や材料や用具の準備面での協力を行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">—— 評価の観点（発想や構想の能力） ——</p> <p>動きの効果や作品全体の形について、展示場所の特徴や見る人の視点と関連づけながら、自分や友だちの表現意図にあった工夫を見つけ出そうとしている。</p> <p style="text-align: center;">【評価方法 観察・発表】</p> <p>支援 表したいことや考えを尋ね、作品のよさや面白さを確認したり、友だちの意見を聞き出したりする。</p> </div>
5. 本時をふりかえる。 <ul style="list-style-type: none"> 自分たちとは異なる視点でアドバイスをもらったので、作品を工夫する方法が見つかった。 展示場所も作品の一部にしてしまうなど、自分では気がつかないことを友だちは気づいてすごかった。 動きが目立つように作品をもう少し工夫して手直ししておきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートを活用し、構想を確認したり、表そうとしていることを図にかいたりして、意識化を図る。 事前の記録と比較しながら、表現の広がりや深まりを意識できるようにする。 ◎より効果的な動きやその表し方を獲得するなど、コミュニケーションをしたことが、表したいことにつながる上で有効であったかを問い、そのよさをワークシートに書くように伝える。 友だちの考えとともに自分が積み上げてきた考えを大切にできるようにする。